

## 伊能忠敬の太宰府測量

伊能忠敬は、今から200年ほど前に全国を歩いて測量し、日本初の実測による日本地図を作製しました。この時の地図は、一部ではあります。が昭和4(1929)年まで使用されました。地図作製の全国測量は、寛政12(1800)〜文化13(1816)年の17年間にも及び、太宰府地域の測量は、文化9年9月26〜27日に行われました。その足跡を忠敬の残した『測量日記』からたどってみましょう。

26日、忠敬は測量隊を二手に分け、六ツ前(午前6時頃)に出発します。忠敬の隊は原田村から諸田村↓永岡村↓針摺村までを測量し、そこからの測量は別働隊にまかせ二日市村を経て通古賀村へ入りました。そして、通古賀村から宰府村までの宰府街道と関屋までの通古賀街道の測量を行います。この時、菅公古館跡や榎寺、天満宮祭礼の御幸所や大宰大貳塚などの史跡が街道沿いに点在していることが記されています。測量のかたわら数々の史跡にも接していたのでしょう。

関屋で昼休みをとり、再び宰府村へ向けて坂本村を経て観世音寺村までの測量を行います。宰府村へ向かう途

### 太宰府人物志

資料室だより<sup>®</sup>

中に、左側に「築山」があり、その側に学業院という宰府の学問所があると記されています。この「築山」については青柳種信あおやなぎたねのぶが、大宰府が栄えていた頃に時の鐘のあつた所であるので「時山」の誤りであると伝えたとされ、忠敬と種信との交流を示すエピソードも記されています。また、観世音寺については、額おののが小野道風のとうふうと、禅僧・即非そくひ如にょいつ一の筆によるものであることや、「源氏物語」にも登場することなどが記されており、忠敬の興味が測量以外の文化・文芸面にまで及んでいたことが伺えるでしょう。

そして、八ツ前(午後2時頃)には測量を終え、宰府大町の宿に到着し別働隊と合流しています。おそらく宿でこの日の測量結果をまとめる作業を行ったのでしょう。夜には、補正のための天体観測も行っています。こうした測量結果をもとに作られた地図が「大日本沿海輿地全図」(伊能図)です。現在、その一部が九州大学デジタルアーカイブのホームページ(http://record.museum.kyushu-u.ac.jp/)で公開されています。

市史資料室 矢野 健太郎